



田村市立都路中学校

学校だより 第8号

令和7年6月6日（金）
発行責任者：校長 佐藤 仁
TEL : 0247-75-2009

めざす生徒像：自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力できる生徒

めざす学校像：志を育む学校 学び合い、高め合う学校 信頼され、愛される学校

悔しさ

田村支部・県中地区中体連総合大会を終えて、選手の皆さんはどんな心境でしょうか。

勝敗によって、勝ち方、負け方によって、または、チームの勝利に貢献できた、できなかつたによって、心境は異なってくると思います。勝敗に関係なく多くの選手の試合後の表情から、喜びや安堵感よりも「悔しさ」や「ふがいなさ」を見て取ることができました。負ければ当然悔しい、しかし勝った試合でも貢献度が低かった場合、素直に勝ったことを受け止められない。「あの時のエラーが…」とか「あの時のスマッシュが…」とか、後悔に近いような気持ちが残る。目標としていたプレーができなかったことへのいらだちを感じる。そんな選手が多かったように思います。

「悔しさ」、辞書には「物事が思い通りにならず、あきらめがつかない、腹立たしい気持ち、残念でたまらない」とあります。他人に対する思いではなく、自分に対して向けられたものです。「悔しさをバネに」というフレーズをよく耳にします。「悔しさ」は人を成長させる原動力になり得ます。

「なり得る」と書いたのは、人は忘れる動物で、今回の大会で感じた強烈な「悔しさ」も時間の経過とともに少しずつ忘れてていきます。忘れることで成長するチャンスを逃すことになってしまいます。

大会後、「悔しさ」を感じた人はその思いを持ち続けてほしい、忘れないでほしい、せっかくの成長のチャンスを逃さないでほしいと思います。「悔しさ」を記憶にとどめておくことはほぼ不可能です。しかし、書きとめておくことはできます。感じた思いを自分の言葉で書き連ね大切に保管する。時々読んで、その時感じた「悔しさ」、その「悔しさ」をバネにがんばろうと思った日のことを思い出し、自分に努力しているかを問いかける。自分を見つめる。書きとめた頃の悔しい思いと現実の取り組みを評価して、新たに目標を設定したり取り組み方法や内容を変えてみたりするなど、改善を図る。その地道な取り組みが、最終的に悔しさから解放され納得のいく結果を得られる方法だと思います。

繰り返しになりますが、今回の大会で感じた「悔しさ」を忘れないように大切にしてほしいと思います。短期的には、次の大会で「悔しさ」をバネに積み重ねた努力が報われるかもしれません。長期的に見れば、部活動の枠を超えて、中学校卒業後の人生、生き方に関わってくると思います。

運動部に所属していようが、文芸部に所属していようが、中学校生活には、「悔しさ」を感じる場面がたくさんあります。「悔しさ」を感じるために勉強でも運動でも、努力の積み重ねが大前提です。頑張って、頑張って、頑張り抜いた結果、「悔しい」と感じる。それが本物の「悔しさ」です。学年によって中学校卒業までの時間は違いますが、強烈に悔しいと感じ、その悔しさを次のステップにつなげられるような経験をしてほしいと思います。 がんばれ！都中生！



文芸部作成